

【るもい農業情報広場】

令和5年4月24日

R5-5月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 【秋まき小麦】

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai@pref.hokkaido.lg.jp



水稻・園芸編も
HPで公開中!

留萌農業改良普及センター本所管内の4月の気温は、3月に続き平年より高く経過しています。今後も作物の生育は早まると予想されます。細やかな観察で適期作業に努めましょう。

1 生育状況に応じた窒素追肥

- (1) 起生期は3月30日（「きたほなみ」、平年より10日早）で、幼穂形成期も早まると予想されます。適期・適量施用で追肥をしっかり効かせ、穂数と粒数を確保します。
- (2) ほ場ごとに生育を確認し、旺盛な場合は減肥で対応しましょう。

表 道北における品種別窒素追肥量の目安

(kg/10a)

| 生育期節 | 品種名 | きたほなみ | ゆめちから | つるきち |
|-------------|--------------|-------|-------|------|
| | 幼穂形成期(平年5/5) | | 4 | 6 |
| 止葉期(平年5/26) | | 4 | 6 | 4 |

2 除草剤散布 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

今年も茎数が多い傾向です。雑草が小さいうちに、また小麦の茎葉が繁茂し雑草へ薬液がかかりにくくなる前に処理を実施することが重要です。

3 病害虫防除 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

(1) 眼紋病

- ・連作や短期輪作ほ場で管内でも見られる土壌伝染性病害です。倒伏・減収の原因となります。
- ・該当ほ場は幼穂形成期頃に薬剤散布を実施しましょう。
- ・小麦の生育が進むと、茎の地際部に薬液がかかりにくくなり、薬剤散布の効果が低下するので注意しましょう。

(2) 赤さび病

- ・5～6月の高温多照が本病の発生・まん延を助長します。
- ・通常、赤さび病の薬剤散布は止葉期に1回目を実施します。その後、病斑が目立つ場合は、臨機で薬剤散布を行います。

4 倒伏防止 「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」参照

- (1) 過繁茂のほ場では倒伏の発生が懸念されるので、植物成長調整剤の使用を検討してください。
- (2) 使用にあたっては、使用時期・使用量・使用上の注意点を十分確認して実施しましょう。

農薬散布にあたっては「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」の最新版を用い、適正使用に努めてください。